



信州うえだ東京の集い

協賛 上田観光コンベンション協会 別所温泉観光協会 菅平高原観光協会 鹿教湯温泉観光協会 武石観光協会

3年ぶり122人が和やかに集う 10月7日(金) コロナ禍で安全に配慮

コロナの襲来でずっと休止されてきた「信州うえだ東京の集い」が10月7日(金)、3年ぶりに浅草ビューホテル4階宴会場「飛翔の間」で開催され、ふるさと上田からの来賓を含め122人が参加して秋の一夜を和やかに楽しんだ。

この日はあいにくの肌寒い雨。コロナの感染は第7波がやや下降気味になっていたが、実行委員会ではどれだけ参加者が来ていただけるかやきもきしていたところ、上田から土屋陽一市長、柳沢憲一郎商工会議所会頭、眞島実J A信州うえだ組合長はじめ29人、首都圏の来賓が17人、一般参加者らが76人と、予定していた120人を超える盛況となった。

午後5時から倉沢裕副会長と荻原由枝副会長コンビの司会で開会。例年開会宣言される浅草演芸ホール館主の松倉久幸さんが体調不良で欠席され、いつもの威勢の良い掛け声が聴けないのは寂しかったが、実行委

員長石井則男副会長のあいさつで幕開けし第1部はコカリナの演奏と二胡の演奏。3年間お待たせしたコカリナ奏者、黒坂黒太郎さんとパートナーの矢口周美さんのオートハープによる息の合った美しい音色、懐かしいメロディにうっとりする場面も。続いてシュウミンさんの二胡独奏。今回で2度目の登場だが、バイオリンのような静かなメロディと激しいパチの響きが交錯し、会場が静まり返った。

第2部は6時半過ぎに始まり、山岸会長の歓迎のあいさつ、台東区長のあいさつ(代読)に続いて土屋市長が登壇し「コロナを乗り越えて皆さんにお会いでき、とても嬉しい。上田もコロナ禍で様々な活動が制限されてきたが、この秋には真田まつりも開催するのでぜひ来てください」とあいさつ。柳沢商工会議所会頭は「今月で会頭を辞任するが皆さんとの出会いは本当に楽しかった。上田の企業もコロナで大変だっ

たが頑張っています」と述べ大きな拍手を受けた。眞島組合長は「上田地域の農業は春先に霜害などあったが、穏やかな天候に恵まれ農家のご努力で収穫を迎えた。果物も美味しい。ぜひ味わって」と笑顔で述べ、塩田のお米と信州りんごを参加者へのお土産とされたと報告、こちらも盛大な拍手を浴びた。その後、佐藤論征市議会議員の音頭で乾杯、長野県酒造組合上田支部から久しぶりに送って頂いたふるさとの地酒6本はあつという間に飲みつくされた。

例年は一つのテーブルに10人が座る席を、今年はコロナに備え6-7人に抑え、料理も個別に配る形に。一人当たりの単価も赤字だが3年ぶりという事で覚悟の大盤振る舞いで、ビューホテル側もこれを知って料理を大サービスしてくれ、参加者からの評判も上々。懇談の間に櫻川梅笑一門による梅后流江戸芸かっぱれが会場を盛り上げ、さらに特別参加のうたごえ喫茶「ともしび」3人衆の演奏、丸子中央病院を舞台にした短編映画「残照のかなたに」のプロデューサー新田博邦さん、出演の土屋貴子さん、丸山和敏丸子中央病院理事長が登壇、最後はオペラ歌手中澤公子さんの指揮で「信濃の国」を合唱。来年に向けて山浦晴朗相談役が明るく締めの手拍子をしてお開きとなった。



土屋市長



柳沢会頭



眞島組合長



左：コカリナとオートハープ演奏の黒坂さんリハ
中：二胡演奏のシュウミンさん
右：ともしび3人衆、右は砂子澤敏子さん



壇上の演奏「一本の樹」に合わせて手話をする参加者



左から石井実行委員長、司会の荻原さん倉沢さん



会場を盛り上げる江戸芸かっぱれ



中澤公子さんの指揮で信濃の国



左から丸山丸子中央病院理事長、土屋貴子さん、新田プロデューサー



山浦相談役による締め